葛巻町が農林水産大臣賞

バイオマスの利活用で高い評価

農林水産省と社団法人日本有機資源協会など３団体が共催で行っている「平成18年度バイオマス利活用優良表彰」で、1月5日、葛巻町が最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

この表彰は、家畜排せつ物や食品廃棄物、間伐材など、これまで十分に利用されていなかったバイオマス資源を農林水産業に有効に利活用している自治体や関係機関・団体を顕彰するもので、本年度は全国から42件の応募がありました。

本町は、くずまき高原牧場から発生する乳牛のふん尿と生ごみを利用したバイオガス発電やその施設で製造された液肥を農地に還元していること、地元の葛巻林業が樹皮から製造している木質ペレットを町内で利用拡大させるため、ペレットボイラー・ストーブを積極的に公共施設や事業所、住宅に導入していることなどの取り組みが高く評価されました。

葛巻町バイオガスシステム施設

くずまき高原牧場から発生する乳牛のふん尿（13㌧/日）と生ごみ（0.4㌧/日）をメタン発酵させて得られるバイオガスを利用し、コージェネ発電設備で電力と熱エネルギーを回収して施設内の電力や発酵槽の温度保持に利用。製造された消化液は、良質な有機肥料として同牧場の採草地に散布されています。

バイオマス 再生可能な生物由来の有機性エネルギーや資源（化石燃料は除く）をいう。種類は、木材や海草、生ごみ、紙、動物の死骸やふん尿、プランクトンなど。

「暖かみが違います。昔のまきストーブと違って煙が室内に出ないので、部屋も汚れませんよ」。本年度、町の補助金を利用し、まきストーブを取り付けた千葉吉治さん（58・小屋瀬）。パチパチと燃える自然の音に癒されています。

広がってきています 環境に優しい暮らし方

町では、環境への負荷が少ない、自然と調和した循環型社会を目指し、平成十五年度から新エネルギーを導入する場合に購入費用の一部を助成してきました。

少し前までは、風力発電などの新エネルギーはあまりなじみがありませんでしたが、町内でも新エネルギーや省エネルギーの設備を利用される方が徐々に増え、身近な存在になりつつあります。

風や太陽、光、木、畜ふんなど身近にあるエネルギー資源を有効に利用するとともに、家庭などで省エネルギーに取り組んでいけば、町の豊かな自然環境を子どもたちへ引き継ぐことができるはずです。環境に優しい暮らし方をできることから始めてみませんか。

町補助を利用した新エネルギーの導入実績（補助額）は、次のとおりです。

▽**太陽光発電設備**…十七件（五百二十万五千円）▽**太陽熱利用設備**…四件（三十五万円）▽**ペレット・まきストーブ**…二十五件（百二十五万円）▽**ハイブリッド車**…四件（三十五万七千六百円）▽**その他**…十六件（百五十三万八千八百円）

町産業振興大会

活力と魅力あふれる農林業の発展を誓う

町産業振興大会は一月二十六日、ふれあい宿舎グリーンテージで開かれ、約百四十人の農林業関係者が集いました。

大会は、町長のあいさつに続き、畜産共進会や営農、林業振興などで活躍した個人や団体を表彰し、その功績をたたえました。

続いて、本年度に農業経営改善計画を作成した四人に町長から認定書が交付されました。町の認定農業者は合わせて百九十九人、平成二十二年度の目標数値二百二十人に一歩近づきました。

また、八人の新規就農者の紹介、家族経営協定を締結した四組の農家が紹介されました。活動事例発表では、ＪＡ青年組織活動実績発表で東北・北海道ブロック大会優秀賞（県大会最優秀賞）に輝いた久保淳（まこと）さん（32歳・山岸）が「べごや　モ～最高」と題して青年部の活動を紹介。酪農後継者たちの意欲的な活動と力強い発表に、会場から盛んな拍手が上がりました。

大会決議は、活力と魅力あふれる農林業を構築するため、①顔が見える産地の確立②循環型農業の構築③森林の団地施業と作業路整備による利用間伐の推進―を掲げ、より一層の生産拡大を誓い、満場をもって承認されました。

その後、「守山乳業と葛巻町の酪農の歴史」と題し、前社長の守山榮氏が記念講演。葛巻工場が建設された昭和十四年以来の町とのかかわりなどを思い出深く語りました。

表彰された方々は、次のとおりです。（敬称略）

産業経済優秀賞を町長から表彰される中六角保広さん㊥

町勢功労者表彰

産業経済優秀賞 ▽中六角保広（中村）▽土谷諭（元木）▽中村優（大沢）▽川村正志（栗山）▽有限会社千春牧場（塚森）▽久保淳（山岸）

町産業振興協議会長表彰

特別功績表彰 ▽中村大地（大沢）▽岩泉慶（寺田）▽折元金喜千（遠矢場）**優良農家等表彰** ▽**優良牛乳生産者**…泡渕清治（星野）、落合隆一（同）、川﨑美由起（遠矢場）、馬場竹雪（五日市）、林文男（小屋瀬）▽**年間平均最高乳価生産者**…泡渕清治（星野）▽**和牛子牛最高販売額生産者**…竹川高行（正路）、下道初男（上外川）▽**山ブドウ栽培優良生産者**…髙山正（馬場）▽**葉タバコ栽培優良生産者**…鹿糠博身（星野）、里澤孝（星野）**農産物共進会** **金賞**▽ホウレンソウ…品川義則（小屋瀬）▽キャベツ…入月トキ（橋場）▽白菜…同▽大根…山下未太郎（土谷川）**花き共進会** **金賞**▽リンドウ…亀山秀長（星野）▽トルコギキョウ…波紫昌子（橋場）**造林・育林・間伐共進会** **最優秀賞**▽造林の部…藤森雅美（浦子内）▽間伐一の部…川﨑市太郎（遠矢場）▽間伐二の部…有限会社アネハル産業（市部内）

町長のひとりごと㉙

二つの農林水産大臣表彰

くずまき高原牧場のグリーンツーリズム大賞は、毎日新聞社主催だったが、農林水産大臣賞もいただいた。賞金は百万円であった。平成十七年度の畜産大賞は賞金二百万円で、そのうち百万円は「もうもう助成制度」として各種団体やイベント開催などに助成し、有効に使っていただいた。

年が明けて一月五日、町と町民のバイオマスエネルギーへの取り組みが優良事例であるとのことで農林水産大臣賞をいただいた。表彰は、松下電器社長と二人であった。懇談の真っ先に大臣から出た言葉が「昭和六十年に高橋吟太郎町長と林業視察にアメリカに行ったんだよ」だった。私は、北上山系開発事業の成功やくずまき高原牧場の取り組み、そして、開発された牧場がクリーンエネルギーの基地になっている現状を説明して「これらはすべて高橋吟太郎町長の遺産で、その延長線上にあるものです」と話した。

後日、農林水産省の職員から「中村町長の話に大臣が大変感心しておりました」とメールが届いた。三十年前の町の取り組みが今も生かされて発展的状況を構築していることに感心したようであった。